



Q. 結核はどのように感染が広がるのですか？

結核は、主に肺に結核菌を吸い込むことで感染します。肺で結核を発病し進行すると、痰に結核菌が混じるようになります。咳やくしゃみなどによって飛び散った結核菌で、周りの人に感染が広がります。結核の定期健康診断は、胸部エックス線撮影をすることが一般的です。

Q. 胸部エックス線撮影以外の検査を受けることもありますか？

胸部エックス線撮影の結果により精密検査が必要となった場合や、寝たきりなどで胸部エックス線撮影の実施が困難な場合など、状況に応じて「結核菌の喀痰検査」、「エックス線 CT 検査」、「血液検査」などを医師の判断で行うこととなります。

Q. 定期健康診断を受けていれば、必ず早期に発見できるのでしょうか？

定期健康診断は結核の早期発見に効果的ですが、年に 1 回受診するものであるため、必ずしも発病初期の段階と受診のタイミングが一致するとは限りません。定期健康診断の受診予定時期にかかわらず、咳、痰、微熱、倦怠感、体重減少等の症状が長引く・繰り返すなどした場合は、結核も考慮し早めに医療機関を受診しましょう。

Q. 結核を発病すると必ず咳などの特有の症状が出現するのでしょうか？

結核は発病の部位、病状、個人差などによって自覚症状の有無、程度は多岐にわたり、自覚症状がないまま病状が進む場合もあります。特に高齢者は自覚症状がある場合でもその訴えが乏しいことが多いので、周りの方が体調の変化に気をつけることが大切です。

Q. 岡山市内ではどのくらい新規の結核患者が発生していますか？

岡山市内では、令和元年 72 人、令和 2 年 59 人、令和 3 年 81 人、令和 4 年 45 人、令和 5 年 51 人、令和 6 年 67 人の患者が発見されています。

Q. 結核に感染している場合、発病させない方法がありますか？

新規の結核患者が発見されるとその病状により、接触のあった人を対象に「胸部エックス線撮影」や「血液検査」などの健康診断を実施します。また、医療・福祉・教育などの職種では、定期健康診断を同様に行っている施設もあります。検査の結果、発病していないが結核に感染していると分かった場合、抗結核薬を予防的に一定期間服薬することで将来の発病を 50 ～ 70% 程度抑制することができますと言われています。

岡山市内では、「潜在性結核感染症」として、年に 30 ～ 80 人程度の方が予防内服を行っています。